

平成20年度第2回 かわさき市民アンケート 概要版

調査の概要

調査設計等	◆調査対象	川崎市在住の満20歳以上の男女個人	◆調査方法	郵送法
	◆標本数	3,000 標本	◆調査期間	平成20年11月10日(月)～11月28日(金)
調査項目	◆標本抽出	住民基本台帳及び外国人登録原票からの層化二段無作為抽出	◆有効回収数	1,411 標本
			◆有効回収率	47.0%
	1	定住状況について	5	スポーツに関する意識・体験について
	2	生活環境の評価について	6	休日急患診療所について
	3	関心ごとと行動範囲について	7	火災予防について
	4	市政に対する評価と要望について	8	自転車等の利用について

※ 基数となるべき実数(n)は、設問に対する回答者数である。また、本文中の「百分率」は小数点第2位を四捨五入しているため、あるいは複数回答のため、数値の合計が100にならない場合がある。

調査回答者の属性

1 性別

	基数(人)	構成比(%)
1 男性	581	41.2
2 女性	806	57.1
(無回答)	24	1.7
合計	1,411	100.0

2 居住区別

	基数(人)	構成比(%)
1 川崎区	200	14.2
2 幸区	141	10.0
3 中原区	230	16.3
4 高津区	207	14.7
5 宮前区	229	16.2
6 多摩区	201	14.2
7 麻生区	187	13.3
(無回答)	16	1.1
合計	1,411	100.0

3 性/年代別

	全体		男性		女性		無回答	
	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)	基数(人)	構成比(%)
1 20歳代	153	10.8	69	11.9	83	10.3	1	4.2
2 30歳代	330	23.4	122	21.0	208	25.8	-	-
3 40歳代	243	17.2	99	17.0	144	17.9	-	-
4 50歳代	226	16.0	100	17.2	126	15.6	-	-
5 60歳代	261	18.5	113	19.4	147	18.2	1	4.2
6 70歳以上	172	12.2	75	12.9	94	11.7	3	12.5
(無回答)	26	1.8	3	0.5	4	0.5	19	79.2
合計	1,411	100.0	581	100.0	806	100.0	24	100.0

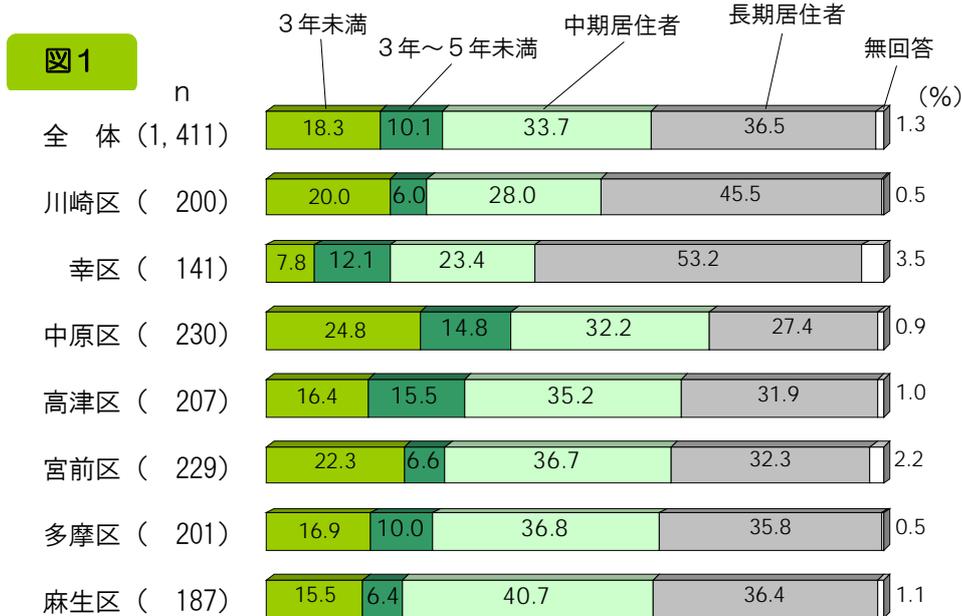
1 定住状況について

1 居住年数

居住年数を聞いた。居住区別でみると、＜長期居住者^{※1}＞は、幸区（53.2%）が5割台、川崎区（45.5%）が4割台半ばと高い。＜中期居住者^{※2}＞は麻生区（40.7%）が約4割となっている。一方、「3年未満」は川崎区（20.0%）、中原区（24.8%）、宮前区（22.3%）で2割台となっている。

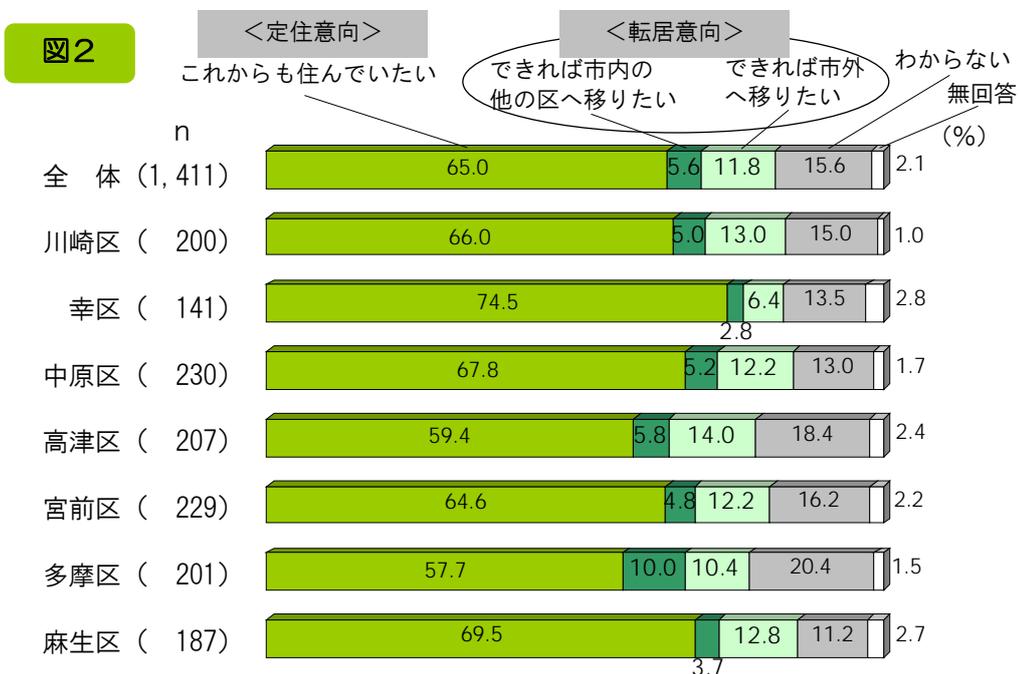
※1 長期居住者：居住年数が20年以上

※2 中期居住者：居住年数が5年以上～20年未満



2 定住意向

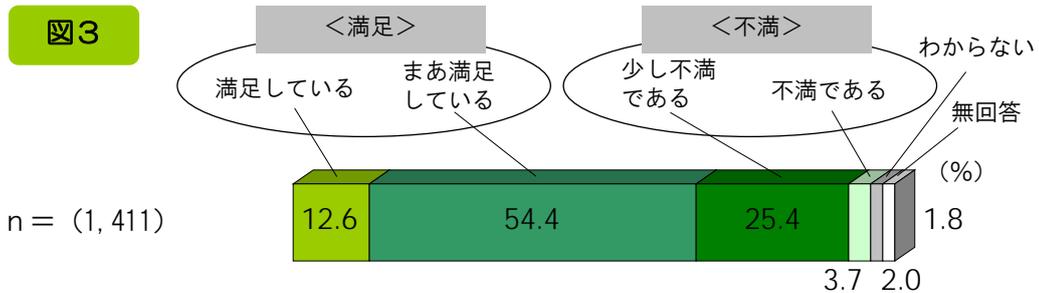
定住意向を聞いた。居住区別でみると、＜定住意向＞は、幸区（74.5%）で7割台半ばと高く、いずれの区でも「できれば市内の他の区へ移りたい」と「できれば市外へ移りたい」をあわせた＜転居意向＞を大きく上回っている。



2 生活環境の評価について

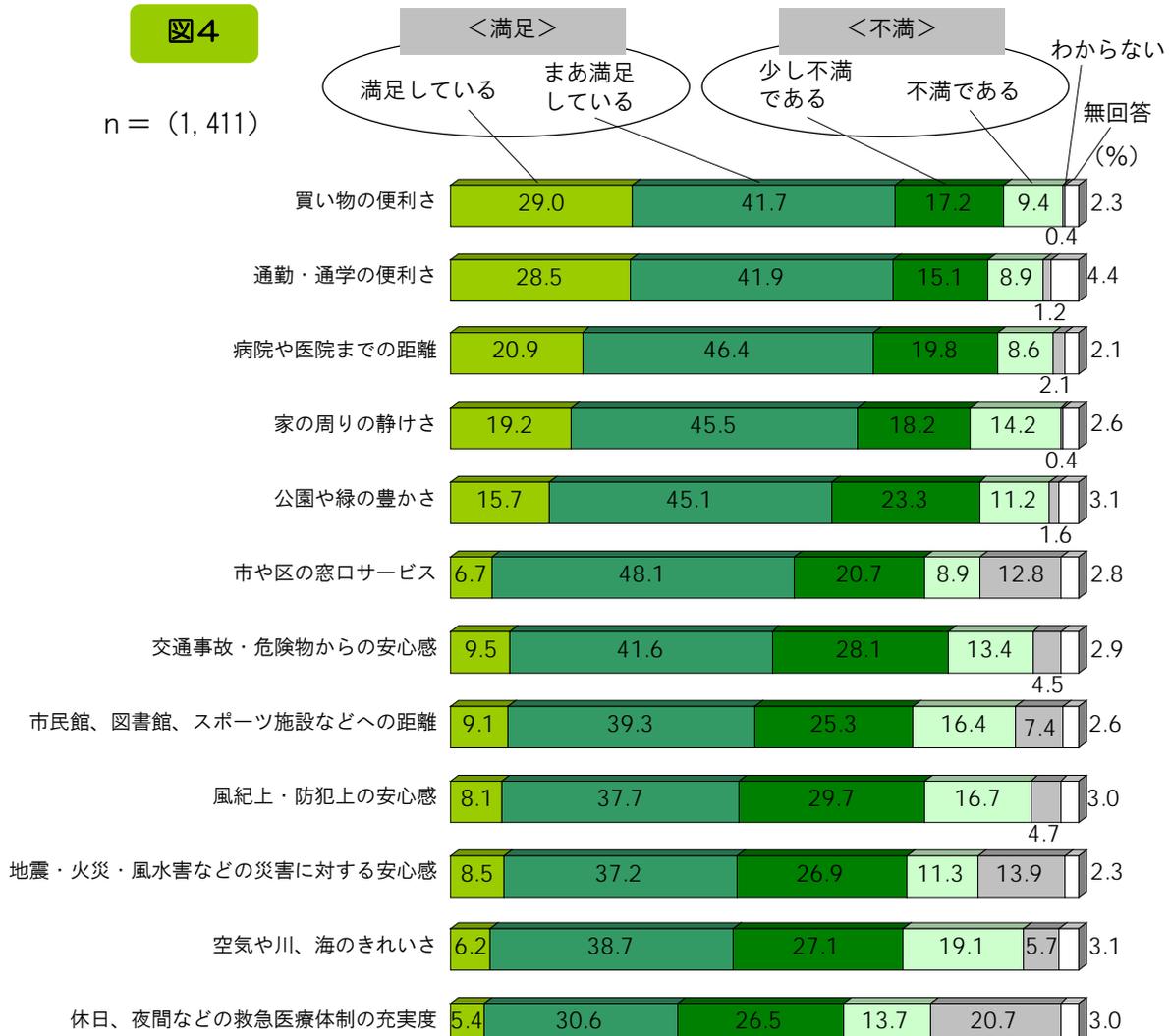
1 総合的な生活環境の満足度

生活環境の評価について、総合的な満足度を聞いた。「満足している」(12.6%)と「まあ満足している」(54.4%)をあわせた<満足>は6割台半ばを超えている。一方、「少し不満である」(25.4%)と「不満である」(3.7%)をあわせた<不満>は約3割である。



2 生活環境の満足度

生活環境の評価について、各項目の満足度を聞いた。<満足>が高いものは「買い物の便利さ」(70.7%)、「通勤・通学の便利さ」(70.4%)、「病院や医院までの距離」(67.3%)、「家の周りの静けさ」(64.7%)などとなっている。



3 関心ごとと行動範囲について

1 関心を持っていること

関心を持っていることを聞いた。「健康」(68.7%)が約7割と最も高くなっている。次いで「老後の生活」(53.2%)、「家族」(46.7%)、「お金・財産」(41.2%)、「仕事(家事や勉強も含む)」(40.3%)という順になっている。

年代別でみると、「老後の生活」は50歳代~70歳以上で高くなっている。「仕事(家事や勉強も含む)」は20歳代~40歳代で高くなっている。

図5 (複数回答) n = (1,411)

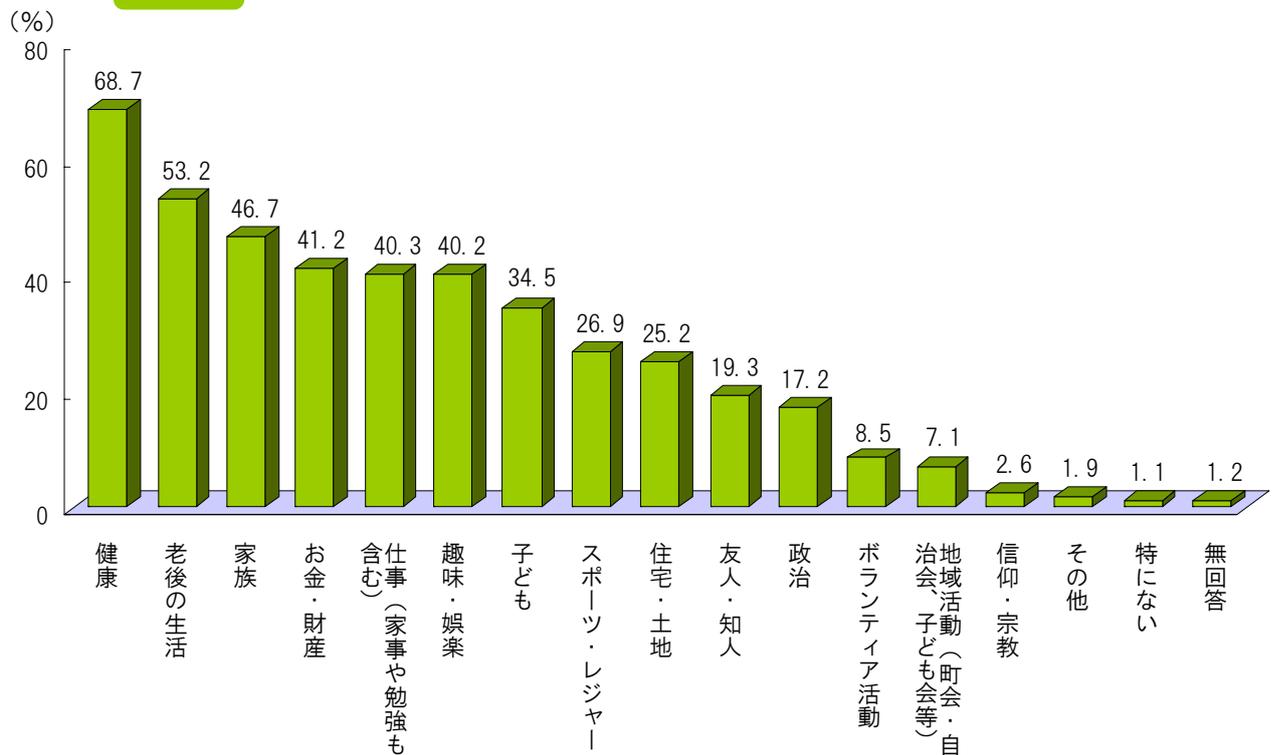


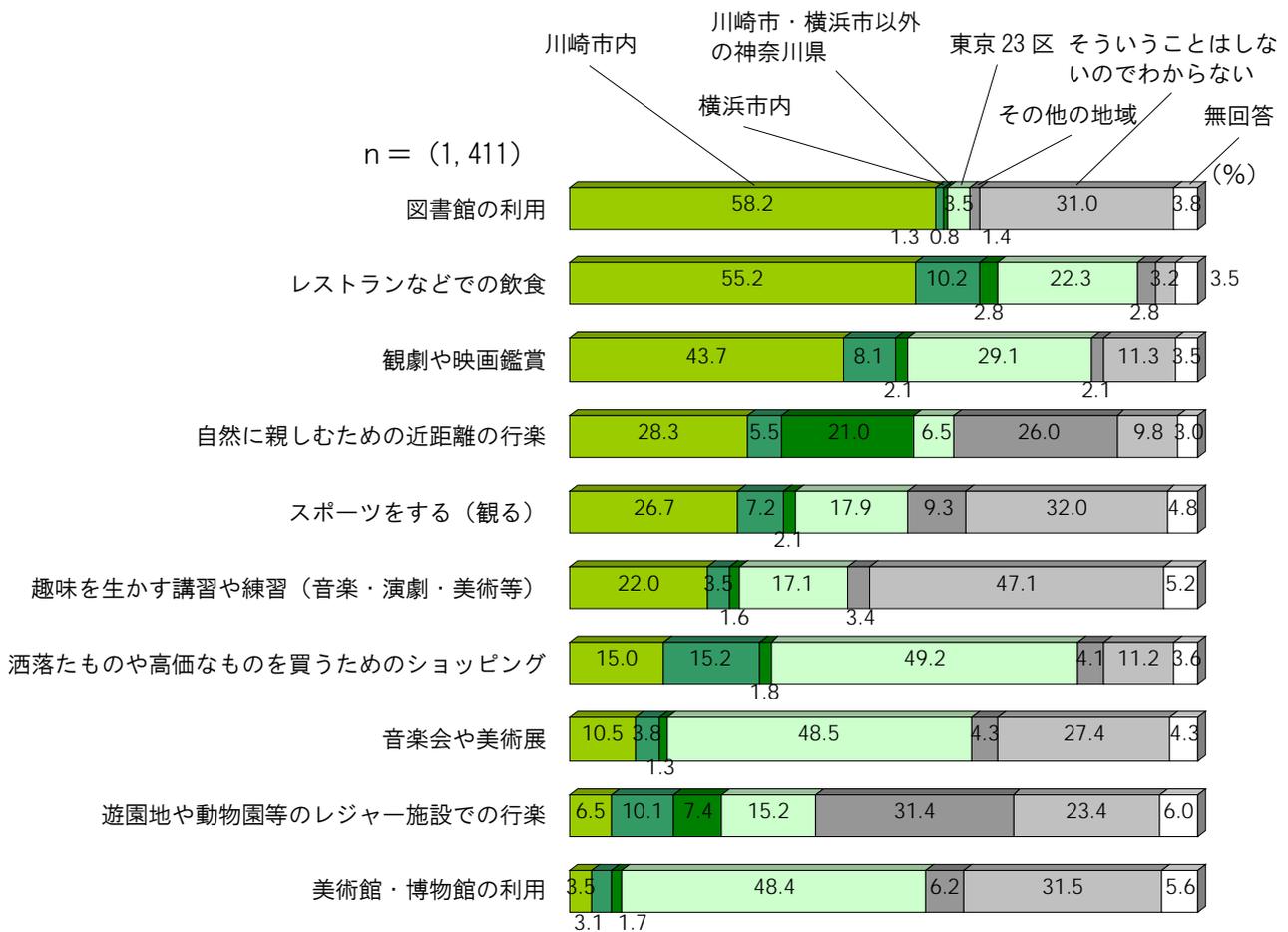
表1 (複数回答、上位10項目)

		(%)									
	調査数	健康	老後の生活	家族	お金・財産	仕事(家事や勉強も含む)	趣味・娯楽	子ども	スポーツ・レジャー	住宅・土地	友人・知人
全体	1,411	68.7	53.2	46.7	41.2	40.3	40.2	34.5	26.9	25.2	19.3
20歳代	153	45.1	15.0	40.5	54.9	62.1	56.9	25.5	43.8	24.2	28.8
30歳代	330	59.1	28.8	54.5	50.9	51.2	42.4	58.5	32.1	35.8	20.9
40歳代	243	73.7	51.4	54.3	48.6	60.1	35.0	47.3	30.9	29.2	16.0
50歳代	226	74.3	76.1	45.6	38.9	38.9	35.4	27.0	19.5	24.3	15.9
60歳代	261	81.2	77.8	40.6	30.7	18.4	41.8	18.4	21.5	18.0	16.1
70歳以上	172	75.0	70.3	37.8	22.7	9.3	32.0	13.4	14.5	12.8	20.3

2 行楽・文化施設の利用・ショッピングの場所

行楽や文化施設の利用、ショッピングの場所などを聞いた。『川崎市内』の利用率が高い項目は、「図書館の利用」(58.2%)、「レストランなどでの飲食」(55.2%)、「観劇や映画鑑賞」(43.7%)、「自然に親しむための近距離の行楽」(28.3%)となっている。一方、『東京 23 区』の利用率が高い項目は、「洒落たものや高価なものを買うためのショッピング」(49.2%)、「音楽会や美術展」(48.5%)、「美術館・博物館の利用」(48.4%)となっている。

図6



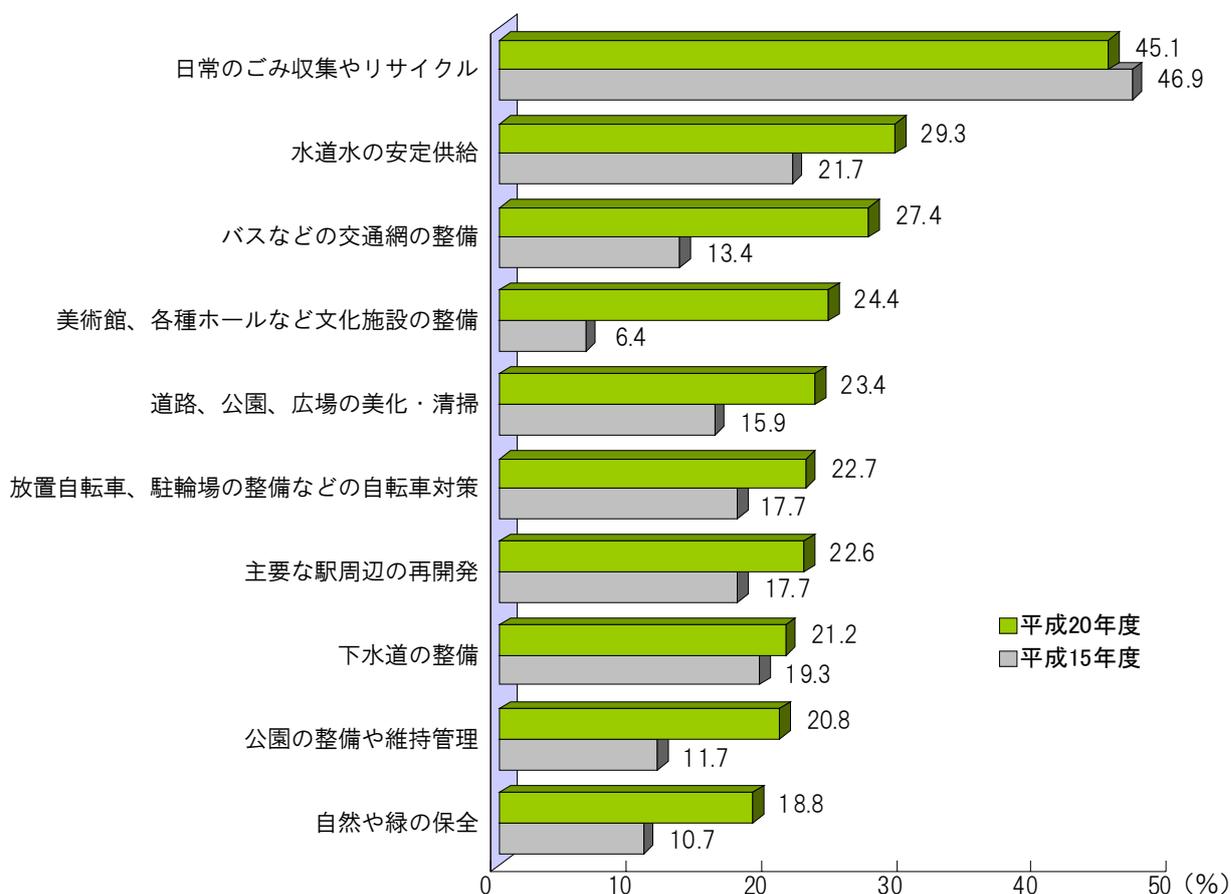
4 市政に対する評価と要望について

1 市政の仕事でよくやっていると思うこと

市政の仕事でよくやっていると思うことを聞いた。「日常のごみ収集やリサイクル」(45.1%)は4割台半ばと高く、次いで「水道水の安定供給」(29.3%)、「バスなどの交通網の整備」(27.4%)となっている。

5年前と比較してみると、全体的に増加した項目が多く、特に「美術館、各種ホールなど文化施設の整備」(24.4%)は18ポイント、「バスなどの交通網の整備」(27.4%)は14ポイント増加している。

図7 (複数回答、上位10項目、平成15年度との比較) n = (1,411)

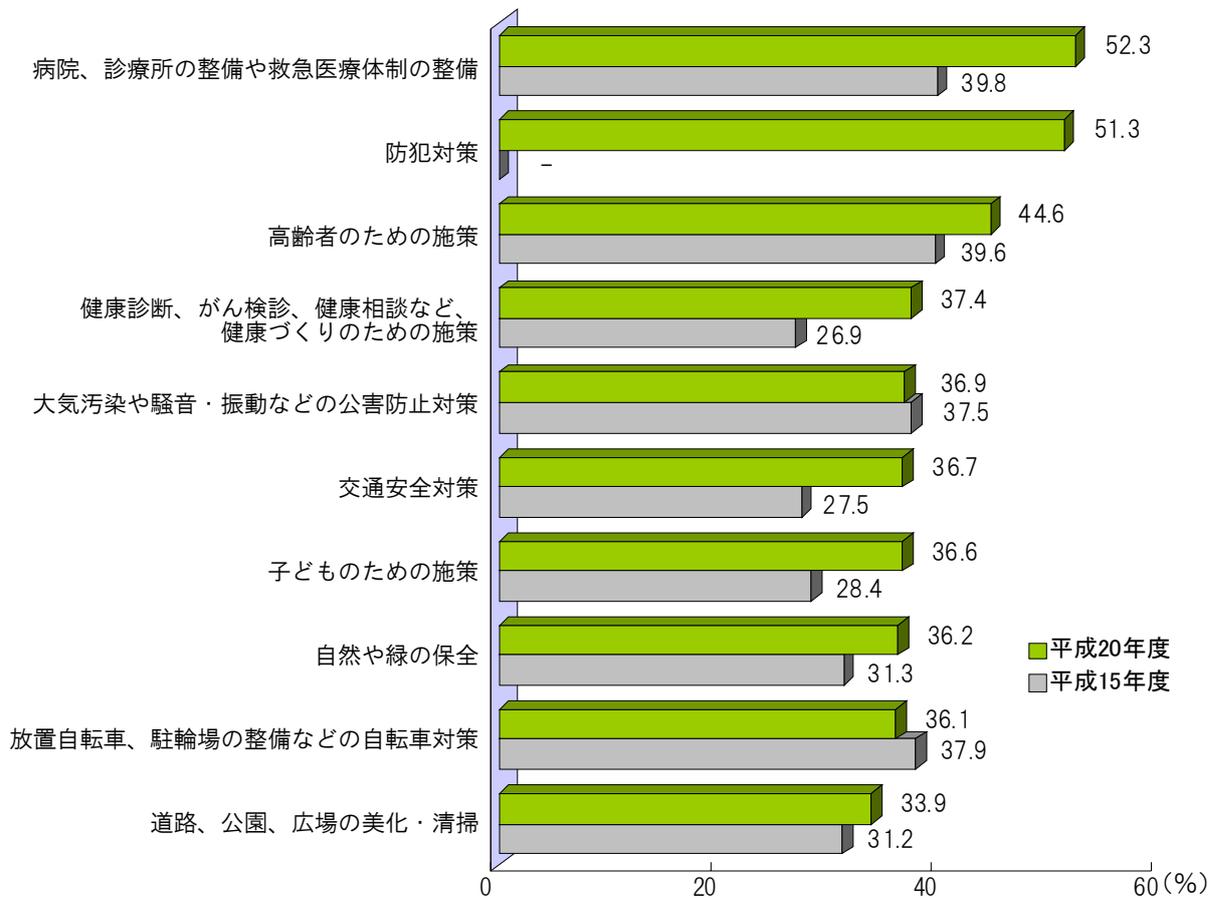


2 市政の仕事で今後特に力を入れてほしいこと

市政の仕事で今後特に力を入れてほしいことを聞いた。「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(52.3%)と「防犯対策」(51.3%)は5割を超えて高くなっている。

5年前と比較してみると、全体的に増加した項目が多く、特に「病院、診療所の整備や救急医療体制の整備」(52.3%)は12.5ポイント、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための施策」(37.4%)は10.5ポイント増加し、健康や医療に関する施策の増加が目立っている。

図8 (複数回答、上位10項目、平成15年度との比較) n = (1,411)



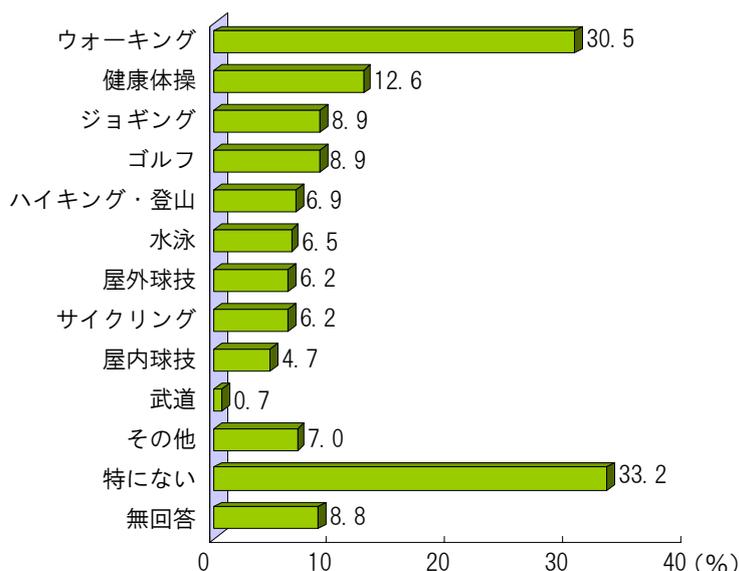
注 「防犯対策」は平成18年度調査からの選択肢であるため、グラフでは平成15年度調査に“-”で表示してある。

5 スポーツに関する意識・体験について

1 現在取り組んでいるスポーツ

現在取り組んでいるスポーツを聞いた。「ウォーキング」(30.5%)が約3割と最も高くなっている。次いで「健康体操」(12.6%)、「ジョギング」(8.9%)、「ゴルフ」(8.9%)という順になっている。一方、「特にない」(33.2%)と回答した人は3割台となっている。

図9 (複数回答) n = (1,411)



2 スポーツをする理由

現在スポーツに取り組んでいる方に、スポーツをする理由を聞いた。「健康によいから」(66.9%)が6割台半ばを超えて最も高くなっている。次いで「体力がつくから」(35.1%)、「爽快感・充実感が得られるから」(29.2%)、「気晴らしになるから」(25.7%)という順になっている。

年代別でみると、「健康によいから」は50歳代～70歳以上で7割台と高い。「気晴らしになるから」と「趣味としてよいから」は20歳代で3割台半ばと高くなっている。「体力がつくから」は年代別で大きな差はない。

表2 (複数回答)

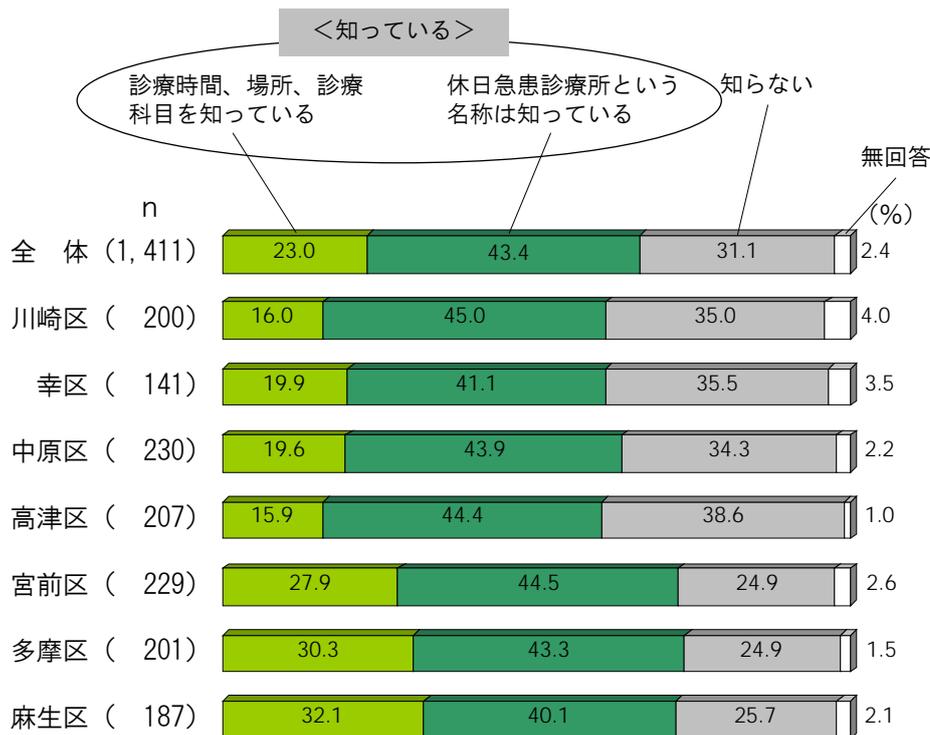
		(%)									
	調査数	健康によいから	体力がつくから	爽快感・充実感が得られるから	気晴らしになるから	人と交流できるから	趣味としてよいから	おもしろいから	経験があるから	仕事への活力が得られるから	その他
全体	818	66.9	35.1	29.2	25.7	18.1	16.7	13.2	5.4	4.2	3.5
20歳代	85	43.5	31.8	29.4	35.3	17.6	34.1	27.1	22.4	9.4	3.5
30歳代	152	55.3	35.5	31.6	29.6	18.4	19.1	19.7	6.6	3.3	6.6
40歳代	143	62.9	39.9	34.3	25.2	18.9	14.0	15.4	2.1	6.3	6.3
50歳代	138	73.9	34.8	30.4	23.2	10.1	13.0	8.0	1.4	4.3	1.4
60歳代	185	79.5	34.1	25.9	23.8	20.5	15.7	3.8	4.3	1.6	0.5
70歳以上	97	78.4	34.0	22.7	18.6	25.8	9.3	11.3	1.0	1.0	3.1

6 休日急患診療所について

1 休日急患診療所の認知状況

休日急患診療所の認知状況を聞いた。居住区別でみると、「診療時間、場所、診療科目を知っている」と「休日急患診療所という名称は知っている」をあわせてく知っている>は宮前区（72.4%）、多摩区（73.6%）、麻生区（72.2%）で7割を超えており、認知度が高い。

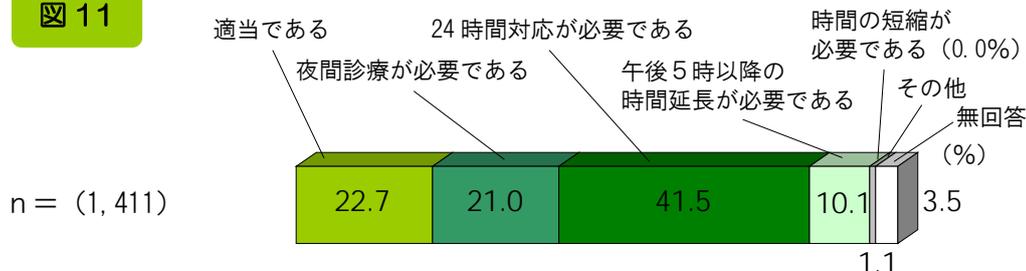
図 10



2 休日急患診療所の診療時間について

休日急患診療所の診療時間について聞いた。「24時間対応が必要である」（41.5%）が約4割、「夜間診療が必要である」（21.0%）が約2割である。一方、現在の診療時間は「適当である」（22.7%）と回答した人は約2割となっている。

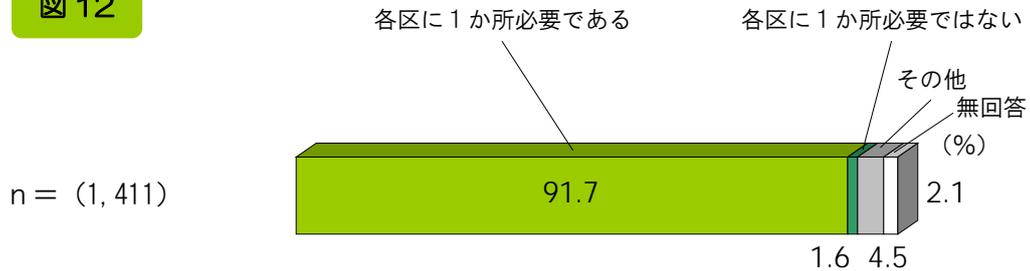
図 11



3 休日急患診療所の数について

休日急患診療所の数について聞いた。「各区に1か所必要である」(91.7%)が約9割となっている。一方、「各区に1か所必要ではない」(1.6%)と回答した人はわずかである。

図 12

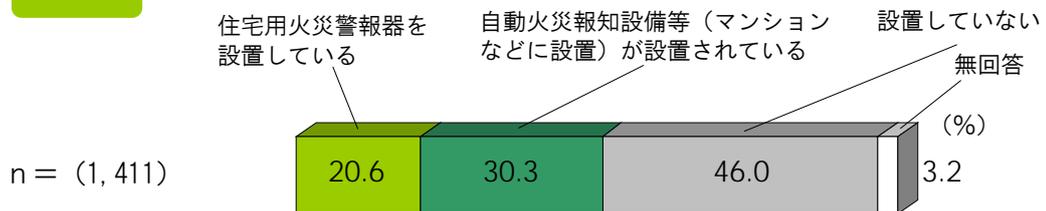


7 火災予防について

1 火災警報器等の設置の有無

火災警報器等の設置の有無を聞いた。「住宅用火災警報器を設置している」(20.6%)が約2割、「自動火災報知設備等(マンションなどに設置)が設置されている」(30.3%)が約3割である。一方、「設置していない」(46.0%)は4割台半ばを超えている。

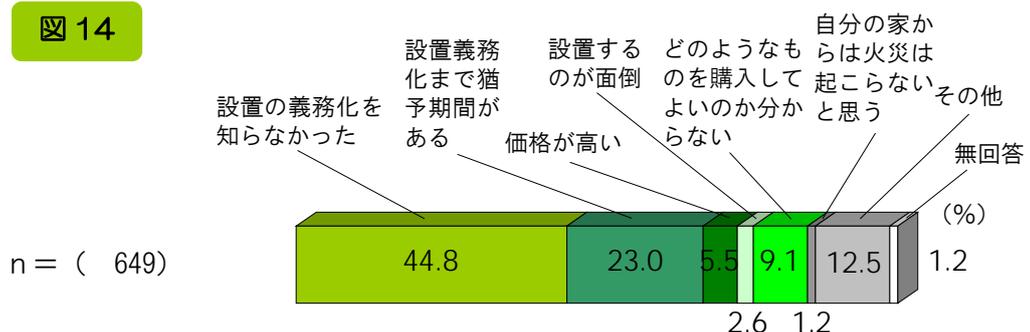
図 13



2 住宅用火災警報器を設置していない理由

住宅用火災警報器を設置していない理由を聞いた。「設置の義務化を知らなかった」(44.8%)が4割台半ばとなっている。また、「設置義務化まで猶予期間がある」(23.0%)が2割台で、「どのようなものを購入してよいのか分からない」(9.1%)が約1割となっている。

図 14

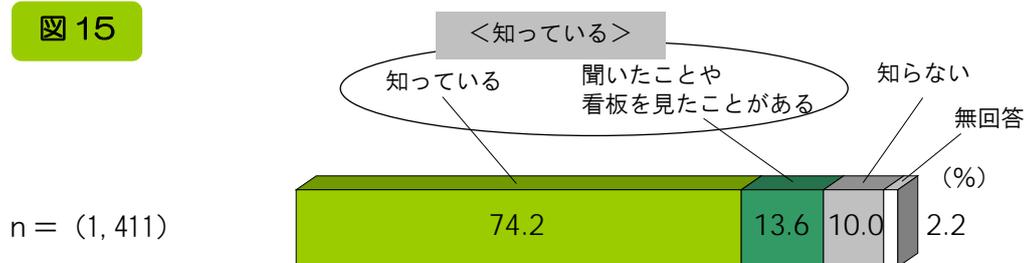


8 自転車等の利用について

1 駅周辺の自転車等放置禁止区域の認知状況

駅周辺の自転車等放置禁止区域の認知状況を聞いた。「知っている」(74.2%)と「聞いたことや看板を見たことがある」(13.6%)をあわせて<知っている>(87.8%)は9割近くとなっている。一方、「知らない」(10.0%)は1割である。

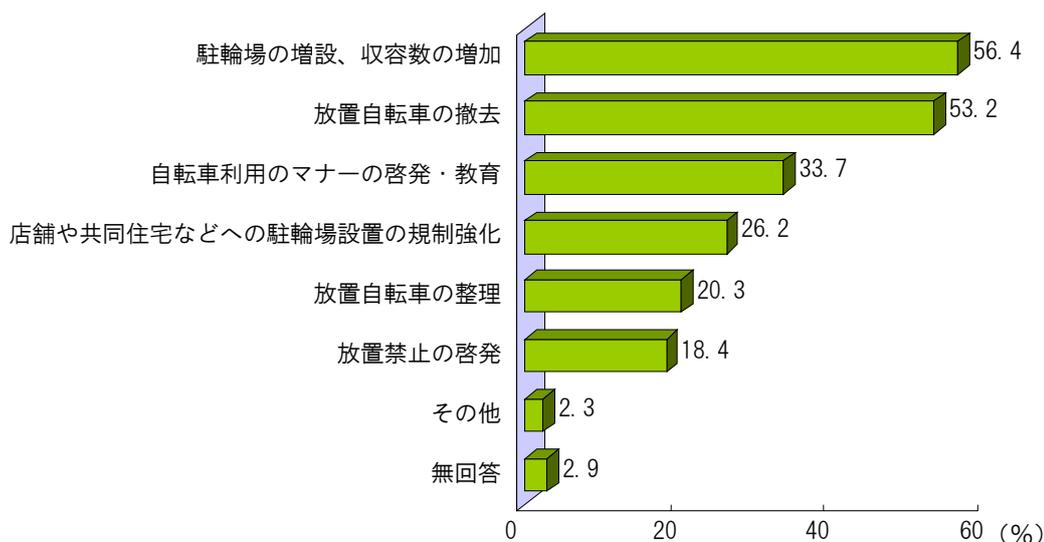
図 15



2 放置自転車対策で重点的に進めてほしいこと

放置自転車対策で重点的に進めてほしいことを聞いた。「駐輪場の増設、収容数の増加」(56.4%)と「放置自転車の撤去」(53.2%)が5割台と高くなっている。次いで、「自転車利用のマナーの啓発・教育」(33.7%)が3割台、「店舗や共同住宅などへの駐輪場設置の規制強化」(26.2%)が2割台半ばとなっている。

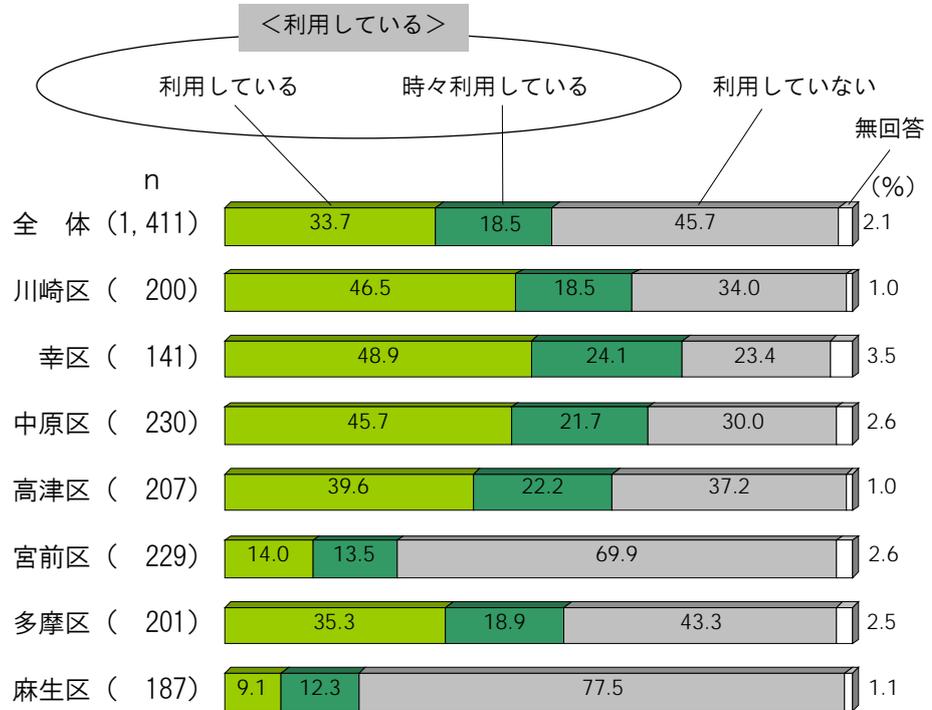
図 16 (複数回答) n = (1,411)



3 自転車・ミニバイクの利用状況

自転車・ミニバイクの利用状況を聞いた。居住区別でみると、「利用している」と「時々利用している」をあわせて利用しているは幸区（73.0%）で7割台と最も高く、川崎区、中原区、高津区で6割台となっている。一方、「利用していない」は麻生区（77.5%）で約8割、宮前区（69.9%）で約7割となっている。

図 17



平成20年度第2回かわさき市民アンケート概要版

平成21年3月

発行 川崎市総務局市民情報室市民の声担当

〒210-8577

川崎市川崎区宮本町1番地

電話 044-200-2148

FAX 044-200-3919